

2025 年 8 月実施入試（夏入試）

電気系（電気工学専攻・電子工学専攻）

博士課程前後期連携教育プログラム（高度工学コース・融合工学コース）（5 年型）
修士課程教育プログラム

I．専攻別試験区分および志望区分一覧

従来の修士課程と同じ修士課程教育プログラムと、博士後期課程を連携した博士課程前後期連携教育プログラム（5 年型：高度工学コースと融合工学コース）の試験区分を設ける。修士課程教育プログラムはさらに一般と留学生に区分する。合格者決定法はそれぞれの試験区分により異なる。各プログラムの志望区分を表 1 に示す。

表 1 各教育プログラムの志望区分一覧

専攻	志望区分	研 究 内 容	対応する教育プログラム		
			連携教育プログラム (融合工学コース)	連携教育プログラム (高度工学コース)	修士課程教育 プログラム
電気工学専攻	1	先端電気システム論 (非線形システム、エネルギーシステム・モビリティ、制御応用・ロボット) 薄教授、グエン講師、持山助教	融合光・電子科学 創成分野	光・電子理工学	任意の志望区分 を選択することが できます。
	2	自動制御工学 (制御工学、システム・制御理論、数値最適化手法、システム解析) 萩原教授、細江准教授			
	3	システム創成論 (システム理論の生体計測応用、波動イメージングと逆問題、生体システム信号処理、人体電波センシング) 阪本教授			
	4	生体機能工学 (マルチモーダル生体信号処理、統計的機械学習、生体磁気計測、脳機能イメージング、量子磁気センサ) 吉井教授、伊藤准教授、上田博助教			
	5	超伝導工学 (超伝導体の電磁現象、超伝導マグネットの電磁特性、超伝導の医療応用、超伝導のエネルギー応用) 雨宮教授、曾我部助教			
	6	電磁回路工学 (電気電子回路、電気電磁回路、エネルギー回路、機械学習による回路設計、ネットワーク数理) 久門准教授			
	7	電磁エネルギー工学 (電磁気学、マイクロ磁気学、電磁界解析、計算工学) 松尾教授、美船准教授			
	8	電波科学シミュレーション (電磁力学、プラズマ理工学、計算機シミュレーション、宇宙空間物理学) 海老原教授、謝講師			

電気工学専攻	9	宇宙電波工学 (宇宙電波工学、宇宙プラズマ理工学) 小嶋教授、栗田准教授、上田義助教	融合光・電子科学 創成分野 任意の志望区分 を選択することが できます。	光・電子理工 学 任意の志望区 分を選択する ことができま す。	任意の志望区 分を選択する ことができま す。
	10	マイクロ波エネルギー伝送 (マイクロ波工学、無線電力伝送、マイクロ波応 用工学) 篠原教授、三谷准教授			
	11	優しい地球環境を実現する先端電気機器工学 (電気機器、輸送機器、再生可能エネルギー、超 伝導機器) 中村教授†、寺尾准教授†			
電子工学専攻	12	集積機能工学 (超伝導・磁性物性、超伝導・磁性材料、超伝導 デバイス工学、テラヘルツ分光、極微真空電子 工学) 米澤教授、掛谷准教授、後藤准教授、 池田助教	融合光・電子科学 創成分野 任意の志望区分 を選択すること ができます。	光・電子理工学 任意の志望区分 を選択すること ができます。	任意の志望区 分を選択する ことができま す。
	13	極微電子工学 (量子スピントロニクス、純スピン流デバイス物 性、トポロジカル物性物理) 白石教授、ブエブラ准教授、大島助教			
	14	応用量子物性 (光量子情報、ナノフォトニクス、光量子計測) 竹内教授、岡本准教授、向井助教			
	15	半導体物性工学 (半導体工学、電子材料、エネルギー変換素子、 電子デバイス工学) 木本教授、金子助教			
	16	電子材料物性工学 (電子材料物性、プローブ顕微鏡、ナノエレクト ロニクス、有機・バイオエレクトロニクス) 小林准教授			
	17	光材料物性工学 (光電子材料、光物性工学、光応用工学) 船戸教授†、正直講師、石井助教、 松田助教†			
	18	光量子電子工学 (固体電子工学、光電子工学、光量子電子工学) 浅野教授†、吉田助教			
	19	量子電磁工学 (電磁波工学、メタマテリアル、テラヘルツ工 学、量子エレクトロニクス) 杉山准教授、中西講師			
	20	ナノプロセス工学 (ナノ構造物理、デバイスプロセス工学、新機能 デバイス工学) デゾイメーカ教授、井上助教			

†・・・特定教員

入学後に履修する教育プログラムを、修士課程教育プログラム（2年）と博士課程前後期連携教育プログラム（高度工学コースおよび融合工学コース）（5年）の試験区分から願書提出時に選択して下さい。

II. 募集人員

電気系（電気工学・電子工学）修士課程教育プログラム（一般）・博士課程前後期連携教育プログラムあわせて合計 73 名（うち、博士課程前後期連携教育プログラムは 20 名以内とする）、修士課程教育プログラム（留学生）は若干名。

III. 出願資格

募集要項 Part A: II - i 出願資格に記載の条件を満たす者。さらに、修士課程教育プログラム（留学生）への出願は、外国の国籍を持ち、在留資格「留学」を有する、又は入学時に「留学」を取得できる見込みであることも条件とする。

博士課程前後期連携教育プログラム志願者は、以上の他に、項目 V.(2) の出願資格審査に合格する必要がある。志願者は所定の書類を VI. に記載の要領で桂キャンパス A クラスター事務区教務掛（電気系）に提出すること。

なお、留学生のうち、京都大学工学部電気電子工学科出身（卒業見込者を含む）以外のものについては、志望研究室申告票で第一位に志望する予定の研究室に必ず事前に連絡をとり、指導希望教員に出願の許可を得ることを必須とする。

IV. 学力検査日程

(1) 修士課程教育プログラム（一般、留学生とも）

月 日	時 間	試験科目
8 月 2 日（土）	9:00～12:00	専門基礎 a
	13:30～16:00	専門基礎 b
8 月 3 日（日）	13:00～	面接（留学生のみ）

＊試験場は桂キャンパス A クラスターである。詳細は受験票送付時に通知する。

(2) 博士課程前後期連携教育プログラム（5 年型：高度工学コースおよび融合工学コース）

(a) 第一次出願資格審査

5 月 16 日（金）～ 5 月 23 日（金） のいずれか一日	9:00～18:00 の間のいずれかの 時間帯（約 60 分）	第一次口頭試問
--	------------------------------------	---------

＊試験場は桂キャンパス A クラスターである。

＊志願者には口頭試問に関する場所・時間の詳細を郵便その他の方法で通知する。

＊第一次出願資格審査の結果は 5 月 26 日(月)までに通知する。第一次出願資格審査に合格した志願者は第二次出願資格審査を受けること。

＊京都大学工学部電気電子工学科を卒業見込み、あるいは卒業した者は、第一次出願資格審査を免除される。

(b) 第二次出願資格審査

5 月 30 日（金）～ 6 月 4 日（水） のいずれか一日	9:00～18:00 の間のいずれかの 時間帯（20 分）	第二次口頭試問
---------------------------------------	----------------------------------	---------

＊試験場は桂キャンパス A クラスターである。

＊志願者には口頭試問に関する場所・時間の詳細を郵便その他の方法で通知する。

＊第二次出願資格審査結果の通知と願書の提出

出願資格審査結果は 6 月 6 日(金)までに通知する。出願資格審査に合格した志願者は入学願書を所定の期間に提出すること。出願期間末日(6 月 11 日(水))まで十分時間がないので注意すること。

(c) 面接

8 月 3 日（日）	9:00～18:00 の間のいずれかの 時間帯（約 10 分）	面接
------------	------------------------------------	----

＊試験場は桂キャンパス A クラスターである。詳細は受験票送付時に通知する。

V. 入学試験詳細

(1) 修士課程教育プログラム（一般、留学生とも）の試験科目

英語 配点 120 点

筆記試験は行わず、TOEFL 等の成績で代用する。提出方法については、項目 VI.1.(b)を参照。提出がない場合は英語の得点が 0 点となる。

専門基礎 a 配点 400 点

数学 1*、数学 2*

電磁気学 1（静電界、静磁界、電磁誘導）

電気回路（交流回路、分布定数回路、過渡現象）

物性基礎（量子力学の基礎、統計力学の基礎、固体物理の基礎）

の計 5 題から 4 題選択する。

* 数学 1、数学 2 は、微積分（一変数関数の微積分、多変数関数の微積分）、常微分方程式、線形代数（行列と連立一次方程式、ベクトル空間、行列の固有値と対角化）、複素関数論、フーリエ解析の範囲から 2 題を出題

専門基礎 b 配点 300 点

電磁気学 2（荷電粒子の運動、マクスウェルの方程式と電磁波）

電子回路（アナログ電子回路の基礎）

自動制御（連続時間システムの古典制御理論）

半導体・固体電子工学（半導体、固体電子物性・デバイス）

の計 4 題から 3 題選択する。

(2) 博士課程前後期連携教育プログラムの試験詳細

第一次出願資格審査、第二次出願資格審査、および面接により可否を判定する。

第一次出願資格審査

電気電子工学分野（数学および物理を含む）の基礎学力に関する口頭試問（約 60 分）を行う。京都大学工学部電気電子工学科を卒業見込み、あるいは卒業した者は、第一次出願資格審査を免除される。

第二次出願資格審査

志望する連携教育プログラム（5 年型）における研究計画に関する口頭試問を行い、これに学部の成績を考慮して資格審査を行う。この口頭試問（8 分説明 12 分試問）では、説明用資料（パワーポイントのスライドなどで 5 ページ以内、A4 用紙 5 枚以内に印刷できるもの）を用意し、持参したパソコンを用いて説明すること。

面接

専攻長が、研究の進捗状況などについて面接を行う。

(3) 有資格者決定法および志望区分への配属

1. 修士課程教育プログラム

専門基礎に関する筆記試験と英語(TOEFL 等)の成績により決定する。総得点(820 点満点)が 410 点以上の者を有資格者とする。有資格者の中から一般・留学生の試験区分ごとに総得点に応じて合格者を決定する。

筆記試験の注意事項

- ・試験中に使用を許可するのは、鉛筆、シャープペンシル（ボールペンは不可）、鉛筆削り（電動式を除く）、消しゴム、時計（時計機能のみのもの。スマートウォッチは使用不可）、眼鏡に限る。
- ・電卓、辞書、定規およびこれに類するものの持ち込みは認めない。

- ・携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ等の電子機器類は、なるべく持ち込まないこと。持ち込む場合には、電源を切り、カバンにしまって所定の場所に置くこと。身につけている場合、不正行為とみなされる場合があるので注意すること。
- ・試験当日は、試験開始 40 分前までに指定された試験室前に集合すること。なお、試験開始時刻から 30 分以降は入室できない。
- ・試験室については、受験票送付時に通知する。

2. 博士課程前後期連携教育プログラム（高度工学コースおよび融合工学コース）

第一次出願資格審査、第二次出願資格審査および面接により決定する。博士課程前後期連携教育プログラム志願者は出願資格審査申込書をVI.2.に記載の受理期間中に提出し、出願資格審査を受けること。出願資格審査には指導予定教員の推薦（受入承諾書）と学部成績証明書が必要である。指導予定教員より受入承諾書を交付してもらう際には、事前に十分面談を重ねること。受入承諾書のない出願資格審査申込書は受理しない。出願資格審査に合格した志願者は工学研究科に出願手続きをし、面接を受けること（志望区分への配属は内々定となる）。正式な合格通知は募集要項 Part A: V 記載の日時に行う。出願資格審査に合格しなかった受験者は修士課程教育プログラム志望で出願することができる。

VI. 出願要領

1. 修士課程教育プログラム

工学研究科に提出する出願書類の他に、以下の書類を提出すること。入学願書とは提出先が異なるので注意されたい（様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること）。

- (a) 指導希望教員承諾書（京都大学工学部電気電子工学科出身（卒業見込者を含む）以外の留学生のみ）

6月11日(水)16時必着(厳守)。郵送の場合は「書留」又は「簡易書留」とすること。※学内便不可
次頁 3. の別途書類提出先に提出すること(期限内必着)。

- (b) TOEFL 等の成績証明書の提出

TOEFL-iBT のみを有効とする。なお、留学生についてはIELTSも可とする。

・ TOEFL-iBTの成績証明書(Test Taker Score Report)の原本（コピーや受験者自身で印刷したものは不可）（オンラインでのテスト申込時にETSアカウントのスコア通知設定（Score reporting Preference）ページで「オンライン上でのスコアレポートと郵送されたコピー」を選択しないと発行・送付されないの注意のこと。**なお、Test Date scoresのみを利用し、MyBest™ scoresは利用しない。また、TOEFL iBT Home Editionのスコアは認めないので、注意すること。**）

団体受験のTOEFL-ITPの成績証明書は受け付けないので、注意すること。

・ IELTSの場合はAcademic Moduleのみを有効とし、成績証明書（Test Report Form）の原本のみ受け付ける。

いずれか（ただし、受験日（2025年8月2日）から過去2年以内に受験した成績証明書に限る。）を次頁 3. の別途書類提出先に提出すること（提出後の変更は認めない）。**また、英語を母国語とする受験者も TOEFL等の成績証明書の提出を必要とする。**

提出は、**7月18日(金)16時必着(厳守)**。郵送の場合は「書留」又は「簡易書留」とすること。

提出された TOEFL 等の成績証明書は、筆記試験終了後に返却する。

- (c) 志望区分の申請

「志望研究室申告票」（様式 1）に志望順位を記入し、次頁 3. に記載する別途書類提出先に提出すること。IX. の「教員・研究内容一覧」を参照して申請すること。

留 学 生：**6月11日(水)16時(必着)**（受験番号の記載は不要）

留学生以外：**(b)の提出期限まで(必着)**（受験番号の記載は不要）**※TOEFL等と同時に提出すること。**

2. 博士課程前後期連携教育プログラム

工学研究科に提出する出願書類の他に、以下の書類を提出すること。入学願書とは提出期間および提出先が異なるので注意されたい（様式は工学研究科ホームページからダウンロードすること）。

(1) 出願資格審査のための提出書類

(a)出願資格審査申込書（様式2）

(b)受入承諾書（様式3）

(c)学部成績証明書（工学研究科に提出する出願書類とは別に用意すること。本学工学部電気電子工学科卒業あるいは卒業見込みの者は必要ない。）

(d)研究計画説明書（様式4）

(e)TOEFL等の成績証明書

前頁のVI. 1. (b)の箇所に記載のものを提出すること。

博士課程前後期連携教育プログラムの志望者は、以上の書類（(a)-(d)）を出願資格審査受理期間**2025年5月7日（水）から2025年5月9日（金）16時（厳守）**までの間に、次項3.に記載する提出先に提出すること。郵送の場合は「書留」又は「簡易書留」便とすること(期限内必着)。

書類（e）については、**2025年5月28日（水）**までに同じ提出先に提出すること。万一、期日までにTOEFL等の成績証明書の原本を提出できない場合は、Web上で閲覧できる成績をプリントアウトしたものを期日までに提出し、それと同一受験の成績証明書原本を、VI.1. (b)に記載する修士課程教育プログラムのTOEFL等の成績証明書提出期限までに、下記の別途書類提出先宛へ提出すること。

第一次出願資格審査のための口頭試問の時間および場所は5月13日（火）までに本人に連絡する。

(2) 志望研究室申告票（様式1）

「志望研究室申告票」（様式1）に志望研究室を記入し、次項3.に記載する別途書類提出先に（1）の提出期限までに提出すること。

3. 問い合わせ先・別途書類提出先

〒615-8510 京都市西京区京都大学桂

京都大学桂キャンパス A クラスター事務区教務掛(電気系)

電話 075-383-2077

E-mail : 090kakyomudenki@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

(メールで問い合わせる場合、電気系志望と記述すること)

HP: <https://www.ee.t.kyoto-u.ac.jp/>

VII. 入学後の教育プログラムの選択

修士課程入学後には3種類の教育プログラムが準備されている。入試区分「電気・電子工学専攻」の入試に合格することにより履修できる教育プログラムは下記の通りである。

- (a)博士課程前後期連携教育プログラム 融合工学コース(融合光・電子科学創成分野)
- (b)博士課程前後期連携教育プログラム 高度工学コース(光・電子理工学)
- (c)修士課程教育プログラム(電気工学専攻・電子工学専攻)

いずれのプログラムを履修するかは、受験者の志望に応じて決定する(V.(3)参照)。

詳細については、「I. 専攻別試験区分および志望区分一覧」を参照のこと。また、教育プログラムの内容については、工学研究科 HP(「工学研究科教育プログラム」<https://www.t.kyoto-u.ac.jp/ja/education/graduate/dosj69>)および、次項の「VIII. 教育プログラムの内容について」をそれぞれ参照すること。

なお、(a)、(b)の連携教育プログラム志望にあたっては、志望区分の指導予定教員の承諾を得る必要がある。教員が不明の場合やその他不明なことがあれば、「VI. 3 の問い合わせ先」に連絡すること。

VIII. 教育プログラムの内容について

【融合工学コース(融合光・電子科学創成分野)】

21 世紀においては全世界規模で情報処理量とエネルギー消費が爆発的に増大し、既存の材料・概念で構成されるハードウェアの性能限界と地球資源の枯渇が顕著になると予測されています。このような課題の解決に貢献し、光・電子科学分野で世界を先導するためには、電気エネルギー・システム工学、電子工学、量子物性工学、材料科学、化学工学、光機能工学、集積システム工学、量子物理工学など複数の異分野を融合して新しい学術分野を開拓し、かつ当該分野を牽引する若手研究者、高度技術者を育成することが重要です。

本教育プログラムでは、光・電子科学に関わる融合領域を開拓する教育研究を通じて、新しい学術分野における高い専門的知識・能力に加えて、既存の物理限界を超える概念・機能を創出する革新的創造性を備えた人材の育成を目指します。究極的な光子制御による新機能光学素子や高効率固体照明の実現、極限的な電子制御による耐環境素子や超集積システムの実現、光・スピン・イオンを用いた新機能素子や新規プロセスの開発、強相関電子系物質や分子ナノ物質の創成と物性制御、高密度エネルギーシステムの制御とその基礎理論、新しい物理現象を用いたナノレベル計測とその学理探求などの融合分野において、常に世界を意識した教育研究を推進します。様々な分野で世界的に活躍する教員による基盤的および先端的な講義、各学生の目的に応じたテーラーメイドのカリキュラムやインターンシップ等を活用した教育、光・電子理工学教育研究センターの協力を得て行う先端的融合研究を通じて、広い視野と高い独創性、国際性、自立性を涵養し、光・電子科学分野を牽引する人材を育成します。

【高度工学コース(光・電子理工学)】

高度でインテリジェントな将来型情報通信社会を実現するために必要なハードウェア技術の基礎から最先端研究レベルまでの学習と、デバイスからシステムに至るまで、発展する電気電子フロンティア基盤科学技術の修得を通して、広範な科学知識とフレキシブルな創造性を備えた豊かな人材を育成します。このプログラムの推進する教育及び研究は、光においては、任意の波長、強度、方向の、発光及び受光を可能にして光を自在にあやつり、電子においては、これまでの概念を超えるデバイスや量子効果などを通して、光と電子を極限まで制御することとその理解を目的とします。フォトリソグラフィやワイドギャップ半導体、分子ナノデバイスや量子凝縮系デバイスなどの新規材料・デバイス創成、パワーデバイス、電子・光・イオンによる革新的ナノプロセス、集積システム、環境エネルギーシステムとその制御、量子生体計測など、世界でトップクラスの研究成果を挙げている分野で教育と研究を推進することにより、博士号取得の段階で、自立し、幅広い専門知識を有し、国際的に通用する一流の人材を育成します。

【修士課程教育プログラム】

本系専攻においては、電気エネルギー、電気電子システム、光・電子材料とデバイス、電子情報通信などの専門分野における基礎学問の発展と深化、ならびに学際フロンティアの拡充と展開による創造性豊かな工学技術を構築することを目的とした教育と研究を行います。具体的には、電気エネルギーの発生・伝送・変換、超伝導現象の諸応用、大規模シミュレーション、自動制御、量子生体計測や、エレクトロニクス of 深化と異分野融合による、超伝導材料、イオンプロセス技術と応用、半導体機能材料、有機ナノ電子物性、電子・光・スピン・量子状態の制御などに関する教育と研究により、基礎から先端技術までの知識を修得して、工学技術開発の基本を体得し、豊かで弾力ある創造性と幅広い視点ならびに意欲的な先進性を有する先端技術研究開発者を育成します。

IX. 教員・研究内容一覧

(電気工学専攻)

教 員 名	研 究 内 容	区 分
薄 教授 グエン講師 持山 助教	<u>先端電気システム論研究室</u> (1) 非線形・多自由度システムの理論とデータ駆動型工学 (2) ソフトウェア工学による複雑システムの制御 (3) エネルギーシステム・モビリティシステムの解析・制御・設計 (4) 環境適応型ロボット歩行、ベストエフォート型モータドライブ	第 1
萩原 教授 細江 准教授	<u>自動制御工学研究室</u> (1) 確率的なダイナミクスをもつ系の解析と制御 (2) ロバスト制御系の解析と設計 (3) 機械系等に対する制御理論の応用に関する実験的研究	第 2
阪本 教授	<u>システム創成論研究室</u> (1) システム理論の生体計測応用 (2) 波動イメージングと逆問題 (3) 生体システム信号処理 (4) 人体電波センシング	第 3
吉井 教授 伊藤 准教授 上田博 助教	<u>生体機能工学研究室</u> (1) 統計的マルチモーダル生体信号処理 (聴覚・視覚・脳) (2) 物理拘束付き確率モデル・深層学習 (3) 光量子磁気センサによる生体磁気計測 (4) MRI を用いたスピンロックシーケンスによる脳機能イメージング	第 4
雨宮 教授 曾我部助教	<u>超伝導工学研究室</u> (1) 超伝導体の電磁現象 (2) 超伝導マグネットの電磁特性 (3) 超伝導の医療応用 (4) 超伝導のエネルギー応用	第 5
久門 准教授	<u>電磁回路工学研究室</u> (1) 電磁現象を含む回路システムの基礎研究 (2) 高速高周波回路のモデル化とシステム信頼性に関する研究 (3) 機械学習を用いた回路設計とネットワークの数理 (4) 電力フローの設計・インタラクティブ制御・電力システムの診断	第 6
松尾 教授 美船 准教授	<u>電磁エネルギー工学研究室</u> (1) 電気電子機器に対するモデル縮約法の開発 (2) 磁性材料のマルチフィジクスモデリング (3) 高速高精度電磁界計算技術 (4) 電気電子機器/デバイス最適設計手法	第 7

海老原 教授 謝 講師 (生存圏研究所)	<u>電波科学シミュレーション研究室</u> (1) 計算機シミュレーションによる宇宙環境変動に関する研究 (2) 計算機シミュレーションを用いた非線形プラズマ波動現象の研究 (3) 宇宙-地球間の電磁氣的結合に関する研究	第 8
小嶋 教授 栗田 准教授 上田義 助教 (生存圏研究所)	<u>宇宙電波工学研究室</u> (1) 科学衛星観測による宇宙空間プラズマ環境の研究 (2) 科学衛星搭載観測機器の超小型化に関する研究 (3) 宇宙利用のためのナノ材料特性に関する研究	第 9
篠原 教授 三谷 准教授 (生存圏研究所)	<u>マイクロ波エネルギー伝送研究室</u> (1) 宇宙太陽発電所 SPS に関する研究 (2) マイクロ波を用いた無線電力伝送に関する研究 (3) マイクロ波を用いた新材料創生に関する研究	第 10
中村 教授† 寺尾 准教授† (寄附講座)	<u>優しい地球環境を実現する先端電気機器工学研究室</u> (1) 回転機を中心とする先端的電気機器の研究 (2) 輸送機器に関する研究 (3) 再生可能エネルギーの利用技術に関する研究 (4) 超伝導機器に関する研究	第 11

(電子工学専攻)

教 員 名	研 究 内 容	区 分
米澤 教授 掛谷 准教授 後藤 准教授 池田 助教	<u>集積機能工学研究室</u> (1) 超伝導体や磁性体の新規物質応答・機能性の研究 (超伝導グループ) (2) 新規物質機能性の次世代測定技術の開発 (超伝導グループ) (3) 高温超伝導体のジョセフソン効果とエレクトロニクス応用 (超伝導グループ) (4) 巨視的量子状態のテラヘルツ時間領域分光 (超伝導グループ) (5) 耐過酷環境極微真空デバイスおよび新奇顕微質量分析技術の開発 (真空電子グループ)	第 12
白石 教授 プエブラ准教授 大島 助教	<u>極微電子工学研究室</u> (1) 半導体量子スピントロニクスの研究 (2) 純スピン流物性物理の研究 (3) トポロジカル絶縁体/超伝導体・ワイル強磁性体などを用いた新奇な固体量子物性の研究 (4) 上記研究を基盤とした新機能デバイスや量子ハイブリッド系の創成と量子技術への発展	第 13
竹内 教授 岡本 准教授 向井 助教	<u>応用量子物性研究室</u> (1) 光量子コンピュータ・量子シミュレーターや集積光量子回路の実現に関する研究 (2) 光量子情報等への応用にむけた、極微光デバイスの実現に関する研究 (3) 光子のさまざまな量子もつれ状態の生成と制御に関する研究 (4) 量子光を用いた、高感度・高分解能の新規光計測に関する研究	第 14
木本 教授 金子 助教	<u>半導体物性工学研究室</u> (1) 低次元半導体ナノ構造の電子輸送とデバイス応用 (2) 抵抗変化不揮発性メモリの基礎研究 (3) ワイドギャップ半導体シリコンカーバイド (SiC) パワーデバイスと高温動作集積回路	第 15
小林 准教授	<u>電子材料物性工学研究室</u> (1) 走査型プローブ顕微鏡を用いた新規物性計測法の開発 (2) 電子材料のナノスケール構造・物性評価 (3) 有機薄膜デバイスの開発とその光・電子物性に関する研究 (4) バイオデバイス・センサの構築へ向けた生体分子の構造機能計測	第 16
船戸 教授† 正直 講師 石井 助教 松田 助教†	<u>光材料物性工学研究室</u> (1) 窒化物半導体を用いた可視・紫外域光源の開発に関する研究 (2) 半導体のナノ局在系光物性の解明と制御に関する研究 (3) 高い時間・空間分解能を有する分光マッピング技術に関する研究 (4) 任意の波長合成を可能とするテラレーメイド光源の開発と応用に関する研究	第 17

浅野 教授† 吉田 助教	光量子電子工学研究室 (1) フォトニック結晶を用いた高ビーム品質・高輝度半導体レーザーの開発と応用 (2) フォトニック結晶レーザーの高機能化 (ビーム偏向制御・短パルス化等) に関する研究 (3) 熱輻射制御による高効率光源およびエネルギー変換に関する研究 (4) 高 Q 値ナノ共振器と極微小光回路による自在な光子制御に関する研究 (5) ワイドギャップ半導体を用いた次世代フォトニック結晶の開発	第 1 8
杉山 准教授 中西 講師	量子電磁工学研究室 (1) 電磁メタマテリアルを用いたテラヘルツ波及びマイクロ波の制御 (2) メタマテリアルを用いた新しい物理現象の理論的提案 (3) テラヘルツ波の測定技術の開発	第 1 9
テ ソ イ メーナ 教授 井上 助教 (光・電子理工学教育研究センター)	ナノプロセス工学研究室 (1) ナノプロセス技術の深化に関する研究 (2) 熱制御に向けたナノ構造開発・評価 (3) フォトニックナノ構造レーザーの解析・作製・評価 (4) ナノ構造における電磁界シミュレーション	第 2 0

†・・・特定教員